【甲子園】５７年ぶり出場の横手、悲願の初勝利ならず

５７年ぶり２度目出場の横手（秋田）は、２年連続１３度目出場の敦賀気比（福井）０対１０で敗れ、初戦で姿を消した。山信田（やましだ）善宣監督は敗戦後「今までにない空気感で、選手もなかなか力を出せなかった。もう少し競った展開をしたかった」と悔しさをにじませた。

横手は１９６９年夏以来、５７年ぶりの甲子園出場。前回出場時は１回戦で平安（京都）に１対３で初戦敗退しており、悲願の初勝利を挙げることはできなかった。

それでも半世紀の思いを背負って聖地で奮闘した選手に、山信田監督は「ずっと閉ざされていた扉をこじ開けた今の子たちは本当にすごい学年。今まで思いが届かなかった先輩たちの分も背負えて戦えた経験は貴重だと思う」。チームが掲げた「甲子園で校歌を歌う」という目標はかなわなかったが、きっと次の代に受け継がれる。

敗戦２日後の１３日、横手市に戻りバスから降りたナインらは、市民から盛大な出迎えを受けた。その後の報告会で、選手が「これからも横手高校野球部への応援、よろしくお願いします」などとあいさつすると、大きな拍手が送られた。



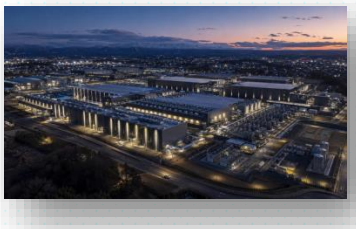
市民からは「これは地元の誇り、お疲れ様でした…！」「素晴らしい時間をありがとうございました」「本当に、私たちの心を甲子園という大舞台に連れて行ってくれた選手たちには、感謝と賛辞をどれだけ贈っても贈り足りないほどです」「秋田のごっつぉいっぺ食べてゆっくり休んでけれなぁ」などの声が上がっていた。■

日本最大級 秋田にＡＩデータセンター

秋田市に日本最大級となる人工知能（ＡＩ）向けのデータセンターを建設する計画が進んでいる。整備費は総額２兆円規模を見込み、アラブ首長国連邦（ＵＡＥ）の政府系ファンドが最大１兆円の投資を検討していることが明らかになった。米国のＡＩ新興企業と秋田市のＩＴ企業が中心となり、２０３０年代前半の稼働を目指す。

本計画は米国のＡＩスタートアップ企業であるビットグリットと、秋田市に拠点を置くＩＴ企業エスツーが特別目的会社を設立して推進している。両社と秋田市は２０２５年１０月に、ＡＩデータセンターの立地と関連産業の集積に向けた連携協定を締結した。建設候補地には秋田市北部の工業団地が挙がっている。

総受電容量は最大５００メガワットを想定しており、完成すれば単独の施設として国内最大規模の計算基盤となる。稼働開始は２０３０年代前半を見込む。施設には米エヌビディア製の高性能ＡＩサーバーを導入して膨大なデータ処理を担う。データセンターの運用に不可欠な大量の電力については、秋田県内で開発が進む洋上風力発電をはじめとする再生可能エネルギーを活用する。さらに年間を通じて冷涼な気候と水資源をサーバーの冷却に利用し、運用コストと環境負荷を低減する。



この巨大プロジェクトに対し、ＵＡＥの政府系ファンドであるムバダラ・インベストメントなどが資金拠出の協議を進めている。周辺インフラへの波及投資を含めた総事業費は最大２兆円に達する見通しで、ＵＡＥ側はこのうち最大１兆円規模を出資する方向で調整している。

ＵＡＥが日本への巨額投資を検討する背景には、中東地域における地政学的な緊張を回避し、政治的・物理的に安定した第三国へ重要資産であるＡＩインフラを分散・保護する狙いがある。一方で、日本政府はデジタルインフラの地方分散を推進しており、２０３５年度までに官民で約３２兆７０００億円をデータセンター整備などに投じる成長戦略を示している。

秋田県における本計画は、豊富な再生可能エネルギーの活用と国のインフラ政策、そして中東の海外投資戦略が合致した大型案件として今後の動向が注視される。■

海老名市の話題

「イオン」がダイエー跡地に

「イオン海老名駅前店」が６月４日の朝、同市中央に開店した。館内には、ダイエー当時から営業する専門店やフードコートも並ぶ。２００メートルほど東には５月１７日まで「イオン海老名ショッピングセンター」があったが、イオングループ内の店舗再編により、食料品売り場を改装。イオンの店舗へと生まれ変わり、ネットスーパーなどの「旧イオン海老名店」の機能を受け継いだ。

一部調理済みのカット野菜や鮮魚などを多く取り扱っていることが特徴だといい、地場野菜や地域にちなんだ商品も取り揃えている。

開店時刻の午前９時の前には１０００人以上が列を作り、オープンを待った。開店後、ほどなくして店内は混雑し、入場規制がかかった。その後も客の数は減らず、列は店外まで至った。

先頭に並んだ８１歳女性は「年金暮らしなので、新鮮で手ごろな商品を多く取り扱ってくれたら嬉しい」と思いを語った。

同店の大原淳店長は「期待以上の商品とサービスを提供するので、ぜひご来店いただきたい」と話した。（タウンニュースより）■

